

# シルク博物館平成29年度年報

シルク博物館

平成31年1月

# シルク博物館平成 29 年度年報

## 目次

1 ごあいさつ .....	1
2 建物の概要 .....	2
3 平成 29 年度のおもな出来事 .....	2
4 事業 .....	3
(1) 展示事業 .....	3
ア 常設展示	
イ 春の企画展「ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る ～織りの美～」	
ウ 秋の特別展「横浜・生糸ものがたり I “かいこ” と暮らすーかながわ養蚕録ー」	
(2) 教育普及事業 .....	6
ア かいこ博士プロジェクト	
(3) 実演・講習会 .....	10
ア くみひも作り体験	
イ 手作り真綿の実演と講習会	
ウ スカーフ染め体験	
エ 手描き友禅色挿し体験	
(4) 連続講座 60 周年イベント「街の記憶～山下町 1 番地を中心に～」 .....	11
(5) 博物館実習の受入れ .....	11
(6) 連携事業 .....	12
ア シルキーウィンターフェスティバル	
イ 横浜絹フェスティバル	
(7) 資料活用事業 .....	15
ア 購 入	
イ 寄 贈	
ウ 資料の貸出	
エ 資料の特別利用	
(8) 刊行物 .....	16
(9) 執筆・講演 .....	16
ア 執 筆	
イ 講 演	
(10) レファレンス .....	17
(11) 後援・協力 .....	17
ア 後援等	

イ 他機関への協力	
(12) 職員の派遣.....	18
(13) 広 報.....	19
ア テレビ・ラジオ	
イ 新聞・業界紙	
ウ WEB	
エ 書 籍	
オ ミニコミ・研究誌等	
(14) その他.....	22
<b>5 資料</b> .....	<b>23</b>
(1) 組織と職員.....	23
(2) 事業費.....	24
(3) 所蔵資料.....	24
(4) 入館者状況.....	24
(5) 過去の特別展・企画展一覧.....	25

# 1 ごあいさつ

シルク博物館は、1959（昭和34）年3月に、横浜開港100年記念事業の一環として建設されたシルクセンターの中に開設され、2019年には開館60周年を迎えます。当館は、絹の科学・技術の理解や絹を用いた服飾品の工芸美を鑑賞する場を提供するとともに、日本の絹の需要促進や国際観光の振興に寄与する目的をもって、さまざまな事業を展開してまいりました。おかげさまで多くの方にご来館いただき、2017年6月には来館200万人目のお客様をお迎えすることができました。

今年度の展示事業ですが、常設展示においては、蚕と絹に関するさまざまな資料を展示替えしながら紹介しました。また、春の企画展「ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る ～織りの美～」と、秋の特別展「横浜・生糸ものがたりⅠ“かいこ”と暮らすーかながわ養蚕録ー」を開催しました。春は優れた絹織物の美を堪能する内容、秋は神奈川県下における養蚕業の変遷と養蚕農家の暮らしを紹介する内容で、ご来館の皆さまからご好評をいただきました。

教育普及事業では、昨年ひきつづき、蚕種配布等の普及事業を一つにまとめた「かいこ博士プロジェクト」を実施したほか、土曜日を中心に多彩なワークショップを開きました。事前申し込みの不要な、気軽に参加できる普及事業として今後も充実させていければと考えています。

また、本年度からは開館60周年記念事業の実施にむけて本格的な検討に入りました。本事業は施設の再整備が中心となる予定ですが、来館者のみなさまへのサービス向上につながるものとなるよう計画を進めています。その一環として、60周年イベントと位置付けた連続講座も開講し、多くの方に参加していただきました。この講座は、さまざまな視点から横浜とシルクの関わりをひも解く学習講座として、開館60周年にあたる2019年までの3年間にわたって開講したいと考えています。

これからも、より充実した博物館活動を通じて、日本のシルクの魅力をより多くの方にお伝えできるよう、つとめてまいる所存です。今後とも、シルク博物館の活動にご理解とご協力をいただきますよう、宜しく願い申し上げます。

2019（平成31）年1月

シルク博物館

## 2 建物の概要

### 【博物館】

展示面積 (2階)	798.00 m <sup>2</sup> (241.39 坪)	※受付前、ミュージアムショップを含む
(3階)	558.03 m <sup>2</sup> (168.80 坪)	
イベントホール	212.72 m <sup>2</sup> (64.35 坪)	
第一収蔵庫	21.76 m <sup>2</sup> (6.58 坪)	
第二収蔵庫	46.24 m <sup>2</sup> (13.99 坪)	
映写室	24.48 m <sup>2</sup> (7.41 坪)	
準備室	62.62 m <sup>2</sup> (18.94 坪)	
図書室	67.80 m <sup>2</sup> (20.51 坪)	

改装 昭和 44 年 (開館 10 周年記念)  
平成 11 年 (開館 40 周年記念)  
平成 24 年 (開館 53 周年記念)

### 【シルクセンター】

所在地 神奈川県横浜市中区山下町 1 番地  
構造 地下 2 階、地上 9 階、塔屋 2 階  
建築面積 2,970 m<sup>2</sup>(900 坪)  
延床面積 24,983 m<sup>2</sup>(7,570.85 坪)  
設計監理 坂倉準三建築研究所  
施工 鹿島建設株式会社  
経過 起工 昭和 32 年 11 月  
竣工 昭和 33 年 11 月 (一部)、昭和 34 年 3 月 12 日 (全館竣工)  
開館 昭和 34 年 3 月 12 日

## 3 平成 29 年度のおもな出来事

- ・春の企画展と秋の特別展を各 1 回開催した。
- ・開館 60 周年記念事業イベントとして、連続講座「街の記憶～山下町 1 番地を中心に～」を開催した。
- ・6 月に来館 200 万人目を迎えた。

## 4 事業

### (1) 展示事業

#### ア 常設展示

年間を通して蚕の飼育展示、繭やシルクの科学、絹製品などができる過程、衣食住にかかわる絹製品、蚕糸業の歴史、日本の復元時代風俗衣装人形、江戸時代の小袖、重要無形文化財保持者をはじめとした現代作家の着物、掛袱紗、アジアを中心とした民族衣装、蚕織錦絵など、シルクに関するさまざまな展示を行なった。10月に逝去された江戸小紋の人間国宝・小宮康孝氏の作品2点を展示し、生前の先生の仕事を偲ぶ展示を行ったほか、錦絵のコーナーではテーマを設けて展示するなどの工夫を試みた。

#### イ 春の企画展「ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る ～織りの美～」

本展では、人間国宝作家の作品を中心に綴織、錦織、紬織、絁織などの帯と着物の織物作品を展示するとともに、2015年に亡くなられた古賀フミ先生のご遺族より寄贈された雅な佐賀錦作品を織台とともに展示紹介した。

様々な織りの手仕事をとおして、着物文化の素晴らしさ、絹の美しさを再発見していただくことを目的とした。

【会期】平成29年4月29日(土)～6月4日(日) (開催期間32日間)

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県／横浜市文化観光局／神奈川新聞社／tvk／NHK横浜放送局／  
一般財団法人日本真綿協会／横浜繊維振興会

【展示】織着物7点、織着尺19点、織帯12点、綴織壁掛4点、織額2点、織機5台、佐賀錦袋・  
帯作品12点、佐賀錦織台2台、佐賀錦試し織等資料3件

【図録】「ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る ～織りの美～」A4判 32頁

【関連企画】

・ビデオ上映：会期中毎日午後上映

「紬織 佐々木苑子のわざ」「佐賀錦 古賀フミのわざ」

企画名	実施日	回数	講師	参加者
ギャラリートーク	5/13(土)、5/27(土)、 6/4(日)	3回	当館職員	8人
試着体験 「シルクのキモノを着てみよう」	5/14(日)、21(日)、	2回	当館職員	1人
シルク講座	6/4(日)	1回	下村輝(下村ねん糸)	31人

## 【入館者数】

(人)

	個人				団体				無料 ※	入場者計
	一般	シニア	高・大	小・中	一般	シニア	高・大	小・中		
日本人	590	395	221	804	103	137	164	340	1,583	4,337
外国人	77	30	9	0	2	0	18	0	—	136
計	667	425	230	804	105	137	182	340	1,583	4,473

※無料その他：招待券、優待券など無料入館者

## 【写真】



### ウ 秋の特別展「横浜・生糸ものがたり I “かいこ” と暮らす—かながわ養蚕録—」

シルク博物館は「横浜開港百年事業」として、生糸貿易の舞台となった横浜の地に開館した。近代以降、日本の生糸産業を支えたものとして(1)養蚕、(2)製糸と撚糸、(3)貿易の3つが挙げられるが、神奈川県はそのいずれにも深い関わりがある。そこで、当館では平成31年に開館60周年を迎えるにあたり、これらをテーマにしたシリーズ「横浜・生糸ものがたり」を開催することとし、本展はその第一回目として、神奈川県内の養蚕をテーマに企画した。

明治20年代以降、神奈川県内各地に器械製糸工場が設立されたが、それを支える養蚕業も広く行われていた。しかし、平成22年には厚木市や相模原市などの農家12軒が養蚕を廃業し、100年を越える神奈川県の養蚕の歴史は幕を下ろした。かつて蚕が作る繭は、農家の貴重な現金収入になっていたことから、まさに繭は「天の虫のめぐみ」だった。本展では、この蚕と暮らしてきた先人たちの記憶を、次世代に伝えていく機会にしたいと考え、往時の神奈川の養蚕の姿を、残された文書や道具等から人々の暮らしとの関わりを展示紹介した。

【会期】平成29年10月7日(土)～11月12日(日) (開催期間32日間)

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県／横浜市文化観光局／神奈川新聞社／tvk／NHK横浜放送局／  
一般財団法人織貿会館／東京織物卸商業組合／横浜繊維振興会

【展示】喜多川歌麿「女織蚕手業草」(公益社団法人川崎・砂子の里資料館蔵)

野本道玄「蚕飼養法記」(当館蔵)

「蚕影山大権現像」(川崎市立日本民家園蔵)

最後の養蚕風景写真(相模原市立博物館蔵) など132点

【図録】「横浜・生糸ものがたり I “かいこ” と暮らす—かながわ養蚕録—」

A4判 32頁

【関連企画】

企画名	実施日等	回数	執筆・担当者	参加者
神奈川新聞文化欄 連載記事「かながわ シルクネットワー ク」	9/25(月) 県内の養蚕 10/2(月) 都市・川崎の養蚕 9(月) 厚木の養蚕結社 16(月)「繭玉団子」の願い 30(月) 横浜・井汲家 11/6(月) 未来への伝承	6回	石鍋由美子 望月一樹 大野一郎※1 加藤隆志※2 羽毛田智幸※3 石鍋由美子	
ギャラリートーク	10/8(日)、14(土)、22(日)、 28(土)、11/3(金・祝)、11(土)、 12(日)	7回	当館職員	88人

※1 厚木市郷土資料館

※2 相模原市立博物館

※3 横浜市立歴史博物館

【入館者数】

(人)

	個人				団体				無料 ※	入場者計
	一般	シニア	高・大	小・中	一般	シニア	高・大	小・中		
日本人	377	221	79	113	107	131	2	1,332	928	3,290
外国人	97	47	5	2	0	0	0	0	—	151
計	474	268	84	115	107	131	2	1,332	928	3,441

※招待券、優待券など無料入館者



【写真】



(2) 教育普及事業

ア かいこ博士プロジェクト

当館が実施してきた春の「蚕種配布」、夏の「かいこ教室」、冬の「たのしいかいこの発表会」等の企画や、通年開催のワークショップ、学校利用等、蚕にかかわる教育普及活動を前年度に引き続き「かいこ博士プロジェクト」と位置づけ、今年度は広報の範囲を横浜市内から神奈川県内全域の小学校まで広げ、当プロジェクトの周知をはかった。

第1弾 蚕種配布

蚕の飼育を通してシルクに興味を持っていただくことを目的とし、横浜市内を含めた神奈川県内全域の小学校等に蚕種の有償配布を実施した。なお、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講した。

【配布日】平成29年5月18日(木)～5月20日(土) (3日間)

【配布件数】218件 (うち横浜市立小学校117件、県内公立小学校15件、その他86件)

【配布数】蚕種：496袋 (1袋約450粒入)、人工飼料：215本

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
かいこについての講座	5/18(木)、19(金)、20(土)	5回	当館職員	141人

## 第2弾 かいこ教室

当館の展示や当館で実施する体験を通して、かいこの成長過程・種類、繭や生糸の特徴等について楽しく学び、シルクを生み出す「かいこ」について、子どもたちにより一層興味・関心を持たせるため、夏休み期間を利用して開催した。

【会期】 I期 平成29年7月29日(土)～8月13日(日)

II期 平成29年8月19日(土)・20日(日) (開催期間 計16日間)

【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／神奈川新聞社／tvk／NHK 横浜放送局／  
一般財団法人日本真綿協会

【展示】めずらしいかいこの展示、かいこ博士プロジェクトについて、かいこの飼育について Q&A  
展示、みんなで作ろう！桑の木パネル

【体験】映画「かいこ」の上映、かいこの観察会、まゆ人形作り、生糸のランプシェード作り、  
スカーフの巻き方体験、まわたのスタンド作りとシルク博物館ツアー

体験 (I期)	参加者
映画「かいこ」の上映	223人
かいこの観察会	264人
まゆ人形作り	302人
生糸のランプシェード作り	240人
スカーフの巻き方体験	59人

※各体験は1日2回、各回定員20名で開講し、

1日で全ての体験に参加できるプログラムとした。

体験 (II期)	参加者
まわたスタンド作りとシルク博物館ツアー	43人

※申込制とし、1日3回、各回定員8名で開講した。

### 【入館者数】

(人)

	個人				団体				無料 ※	入場者計
	一般	シニア	高・大	小・中	一般	シニア	高・大	小・中		
日本人	494	71	30	351	189	26	3	145	409	1,718
外国人	48	9	5	3	0	0	0	0	—	65
計	542	80	35	354	189	26	3	145	409	1,783

※招待券、優待券など無料入館者

## 【写真】



### 第3弾 団体利用・ワークショップ

#### (a) 団体利用

団体見学では学校の利用が大きな割合を占める当館では、説明や映写、ワークシートの利用を含めた見学を通して、蚕について知識を深めるだけでなく、蚕が生み出す「シルク」についての学習へとつなげていくため、見学内容の充実を図った。なお、学校やクラスによって学習したい内容は異なるため、担当教員との打ち合わせも事前に丁寧かつ積極的に行なった。

【団体利用件数】 61件（うち横浜市立小学校34件、県内国公立小学校11件）

【下見件数】 30件

#### (b) 子ども向けワークショップ「まゆ人形作り」

かいこが作った繭の特徴等について、子どもたちが楽しく学べる機会を増やすため、当館オリジナルキャラクター「まゆるん」の繭人形作りのワークショップを開催した。

企画名	実施日	回数	講師	参加者
まゆ人形作り	毎月第2土曜日（8月を除く） 4/8、5/13、6/10、7/8、9/9、10/14、 11/11、12/9、H30/1/13、2/10、3/10	11回	当館職員	34人

## 第4弾 たのしいかいこの発表会

「かいこ博士プロジェクト」の集大成として、子どもたちが飼育した蚕の観察記録や繭や生糸を使った作品を募集し、蚕について学んだ成果等を発表する機会として開催した。なお、12月17日には表彰式も実施した。

【会期】平成29年12月2日(土)～平成30年1月8日(月・祝) (開催期間25日間)

【展示】出品作品の展示 (出品団体数25件、制作者932名、出品数233点)、  
みんなでつくろう！桑の木パネル (かいこ教室時に作成したもの)

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
たのしいかいこの発表会 表彰式	12/17(日)	1回		203人※
生糸のランプシェード作り クリスマスバージョン	12/23(土・祝)	1回	当館職員	4人

※教員・保護者含む

【写真】



【入館者数】開催期間が同様の「シルキーウィンターフェスティバル」の入館者数を含む (人)

	個人				団体				無料 ※	入場者計
	一般	シニア	高・大	小・中	一般	シニア	高・大	小・中		
日本人	172	71	49	—	18	44	5	—	1,115	1,474
外国人	50	5	7	—	0	0	0	—	0	62
計	222	76	56	—	18	44	5	—	1,115	1,536

※「無料」：期間中の小・中、招待券、優待券など無料入館者、及び12月17日(日・入館無料日)入館者

### (3) 実演・講習会

#### ア. くみひも作り体験

鎧や刀、帯締めなどに使われてきたくみひもを、より身近に感じていただくため、くみひものストラップやミサンガ作りの体験を実施した。

企画名	実施日	回数	講師	参加者
くみひもストラップ作り	4/15、8/26、9/30、11/25、 2/24、3/31 各土曜日	6回	当館職員	4人
ミサンガ作り	7/22、9/23、11/18、1/27、 3/24 各土曜日	5回	当館職員	5人

#### イ. 手作り真綿の実演と講習会

真綿作りの伝統的な技術を次の世代に伝えるため、真綿に関する実演や講習会を開催した。

【後援】一般財団法人日本真綿協会

企画名	実施日	回数	講師	参加者
手作り真綿の実演	4/1(土)、4/29(土・祝)、5/6(土)、 5/27(土)、6/3(土)、7/1(土)、 9/2(土)、10/7(土)、11/4(土)、 12/2(土)、1/6(土) 2/3(土)、3/3(土)	13回	河合貞子	—
真綿からの太糸作り 実演	毎月第3土曜日 4/22、5/20、6/17、7/15、9/20、 9/16、10/21、12/16、1/20、 2/17、3/17	10回	河合貞子	—
手作り真綿の講習会	6/23(金)、6/24(土)、6/25(日)	3回	河合貞子	12人
手紬糸作り実演	5/4(木・祝)、5/5(金・祝)、 11/3(金・祝)	3回	田村恭子 (伝統工芸士)	—
手紬糸作り講習会	7/16(日)、11/23(木・祝)	2回	田村 恭子 (伝統工芸士)	12人

#### ウ. スカーフ染め体験

シルクスカーフに親しんでいただくため、シルクの白いスカーフ生地にビー玉やゴムを使って簡単な絞り模様をほどこし、草木染め染料による染色体験を実施した。

企画名	実施日	回数	講師	参加者
スカーフ染め体験	6/17(土)、10/28(土)	2回	佐藤 のり子	12人

## エ. 手描き友禅色挿し体験

美しい友禅染をより身近なものとして親しんでいただくため、友禅染めの糸目糊による模様が描かれた絹生地に色を挿す体験を実施した。

企画名	実施日	回数	講師	参加者
手描き友禅色挿し体験	5/28(日)	2回	生駒暉夫 (日本工芸会正会員)	19人

## (4) 連続講座 60周年プレイベント「街の記憶～山下町1番地を中心に～」

平成31年度にシルクセンター開館60周年を迎えるにあたり、プレイベントとして申込制の連続講座を開催した。シルク博物館のある山下町1番地には、開港当初にいち早く生糸貿易を始めたイギリス系総合商社のジャーディン・マセソン商会があった。関東大震災後、昭和7(1932)年には神戸に移転したが、その跡地は同10(1935)年に開催された復興大博覧会の会場として使用され、戦後もなくはアメリカ軍の施設が置かれていた。当連続講座では、山下町1番地に焦点をあて、街の記憶を振り返りながら横浜の歴史を紹介するとともに、シルク博物館の使命や役割を考えていく機会とした。

### 【開催日等】

講座名	実施日	回数	講師
ジャーディン・マセソン商会とその活動 —開港後の生糸貿易	1/13(土)	1回	西川武臣 (横浜開港資料館 副館長)
絵図・地図に見る開港地 —近世から近代への変遷	2/10(土)	1回	望月一樹 (当館学芸担当課長)
震災・戦災・占領を乗り越えて —山下町1番地の歴史が語る横浜の現代史	3/10(土)	1回	羽田博昭 (横浜市史資料室 調査研究員)

※3回すべてに出席できることを条件とし、定員50名のところ38名が受講した。

## (5) 博物館実習生の受入れ

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めてもらうため、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)による受入れを行った。前半はシルク博物館の活動や役割についての講義、後半は「かいこ教室」で普及活動の実践を行った。講義で得たことを来館者に自ら説明することで、絹に関わる産業、歴史、文化への興味関心を深めてもらう機会とした。

【実習期間】平成 29 年 7 月 25 日(火)～8 月 13 日(日)

※ 2 班に分け日程を割り当てて実施

【受入校】 8 大学 8 人

大学名	学年	人数
専修大学	3 年	1 人
鶴見大学	4 年	1 人
多摩美術大学	4 年	1 人
昭和女子大学	4 年	1 人
立教大学	3 年	1 人
桜美林大学	4 年	1 人
日本大学	4 年	1 人
学習院大学	4 年	1 人

## (6) 連携事業

### ア. シルキーウィンターフェスティバル

若い世代を含めたより多くの方々にシルク博物館やシルクセンターに来ていただき、楽しくシルクへの理解を深め、シルクに関わる産業の振興を図ることを目的として、展示とクリスマスイベントを実施した。

関東学院大学の協力により、横浜輸出スカーフの展示・スカーフ等を使った館内の飾りつけを行い、またシルクミュージアムショップの協力によるシルクフェアも開催した。

【会期】平成 29 年 12 月 2 日(土)～平成 30 年 1 月 8 日(月・祝) (開催期間 25 日間)

【主催】シルク博物館

【協力】関東学院大学／クラシック・ヨコハマ 2017 横浜市民広間演奏会／

シルクミュージアムショップアソシエーション

【イベント】シルキークリスマス (無料入館日 総入館者数 353 人)

プログラム名	実施日	出演者等	観覧
シルクスカーフを用いたファッションショー	12/17	関東学院大学	43 人
クラシック・ヨコハマ 2017 クリスマスコンサート		横浜市民広間演奏会	50 人

### 【入館者数】

開催期間が同様の「たのしいかいこの発表会」の入館者数を含む

(人)

	個人				団体				無料 ※	入場者計
	一般	シニア	高・大	小・中	一般	シニア	高・大	小・中		
日本人	172	71	49	—	18	44	5	—	1,115	1,474
外国人	50	5	7	—	0	0	0	—	0	62
計	222	76	56	—	18	44	5	—	1,115	1,536

※「無料」：期間中の小・中、招待券、優待券など無料入館者、及び12月17日(日・入館無料日)入館者

【写真】



## イ. 横浜絹フェスティバル

当館では、横浜絹フェスティバル実行委員会(事務局:松村株式会社内)に参画しており、絹とともに発展した街「横浜」の、様々な取り組みを通して絹の魅力を発信し、絹の需要促進につなげるため、平成28年度に引き続き「横浜絹フェスティバル」に参加した。

【主催】 横浜絹フェスティバル実行委員会

(横浜繊維振興会、日本きもの文化連絡協議会、シルク博物館、日本シルクを守り育てる会、横浜高島屋、横浜ベイホテル東急など)

【協力】 経済産業省関東経済産業局絹のみちプロジェクト／横浜ファッションデザイン専門学校／

(一社) 日本きもの文化連絡協議会

【後援】 横浜市文化観光局・経済局／(一財) 大日本蚕糸会／横浜商工会議所／

(公財) 横浜観光コンベンション・ビューロー／(公社) 横浜貿易協会／

(一社) 横浜港振興協会／神奈川倉庫協会／神奈川新聞社／tvk／NHK 横浜放送局／

朝日新聞横浜総局／毎日新聞横浜支局／読売新聞横浜支局／産経新聞社横浜総局／

日本経済新聞社横浜支局／東京新聞横浜支局

### (a) 「第2回横浜絹フェスティバル」

横浜高島屋7階呉服売り場で、蚕の飼育展示及び関連パネルのケース展示を行った。



【会期】平成 29 年 10 月 4 日(水)～17 日 (日)

【連携内容】

企画名	実施日	備考
チラシ持参者への割引	10/4(水)～17(火)	チラシ 1 枚で 2 名まで団体割引 利用者 0
ガイドツアー「横浜生糸地図 ～シルクの歴史と文化の街を 歩く」への協力	10/29 (日)	横浜シティーガイド協会主催 参加者 25 名を館内案内
絹フェスタスタンプラリーへの 協力	10/7(土)～17(火)	当館の他、市内 8 ホテル、横浜税関 等 13 ヲ所にスタンプ設置 景品引き換え者 30 名

【写真】



(b) 「ヨコハマ“絹 FES”in 大さん橋」

大さん橋ホールの特設会場にブースを設置し、「絹にまつわるミニ知識」として蚕の飼育展示、横浜とシルクに関するパネル展示を行った。

【会期】平成 29 年 11 月 15 日 (水)

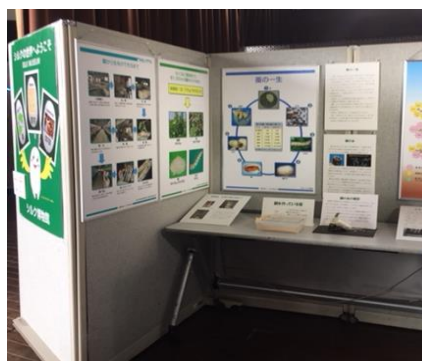
【連携内容】

企画名	実施日	備考
チャリティー抽選会景品	11/15(水)	プレゼントの一部として、当館招待券 100 枚提供

【入場者数】

約 600 名

【写真】



## (7) 資料活用事業

### ア. 購入 1点

資料名	点数	制作者
友禅着物「夏去る」	1点	二塚 長生

### イ. 寄贈 472点

資料名	点数	寄贈者
紹銀通し丸帯・紹朱珍丸帯	2点	奥田 良子
養蚕錦絵・養蚕書・絵葉書・写真資料など	470点	宮崎 恵之助

### ウ. 資料の貸出 3件9点

資料名	点数	事業名	貸出先	期間
留袖「青海波」縮緬地友禅染繡 中村勝馬作	1点	「繊細な技巧の彩— 次世代へつなぐ心と 技—」	式年遷宮記念 神宮美術館	10/27(金)～ 11/27(月)
生地 藍地唐花文羅 喜多川平朗作	6点	「日本のわざと美」 展 —重要無形文化 財とそれを支える 人々—	文化庁 (会場:富山 県水墨美術 館)	11/17(金) ～ 12/17(日)
袴地 「松濤」精好仙台平 甲田栄佑作				
帯 七献立献上博多織 小川善三郎作				
留袖「雲文」縮緬地友禅染繡 中村勝馬作				
伊勢型紙 突彫「御所伽」 南部芳松作				
伊勢型紙 道具彫「三筋亀甲菱菊」 中村勇二郎作				

屏風「楽園」友禅染 木村雨山作	2点	「森羅万象をまとう 友禅 人間国宝 木 村雨山・二塚長生の 仕事」	石川県立美術館	1/4(木)～ 2/12(月・祝)
訪問着「花」友禅染 木村雨山作				

## エ. 資料の特別（写真）利用 2件2点

資料名	点数	掲載誌等	利用者	掲載日等
訪問着「やえざくら」友禅染 田島比呂子作	1点	三井生命グループ 2018 年人間国宝カレンダー	(株)DNPアートコミュニ ケーションズ	12月
生糸の束装	1点	NHK DVD「日本の世界 遺産」第11巻	(株)NHKエンタープラ イズ	8/21

## (8) 刊行物

『ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る ～織りの美～』展示図録

A4判 32頁 平成29年4月29日発行

『横浜・生糸ものがたり I “かいこ”と暮らす ーかながわ養蚕録ー』展示図録

A4判 32頁 平成29年10月7日発行

『平成30年度上半期 催し物案内』 A3三つ折り 平成30年3月発行

## (9) 執筆・講演

### ア. 執筆

題名	掲載日	掲載先	執筆者
かながわシルクネットワー ク「県内の養蚕」	10/2(月)	『神奈川新聞』[文化] イマナカ	石鍋由美子
かながわシルクネットワー ク「都市・川崎の養蚕」	10/9(月)	『神奈川新聞』[文化] イマナカ	望月一樹
かながわシルクネットワー ク「未来への伝承」	11/6(月)	『神奈川新聞』[文化] イマナカ	石鍋由美子
地域博物館と学芸員	30年4月	『神奈川県博物館協会報』89号	望月一樹
(一財)シルクセンター国際 貿易観光会館の紹介	30年4月	「シルクレポート」 No.57	坂本英介

### イ. 講演

題名	内容	講演日	主催	会場	講演者
川崎の発展 に寄与した	二ヶ領用水の開鑿 や維持管理などの	7/22(土)	muLab(ミューラ ボ)	かわさき市民活動 センター会議室	望月一樹

二ヶ領用水	基礎的内容				
六郷の渡しと六郷橋	東海道において多摩川を渡る手段である渡船と橋の歴史	9/16(土)	大山街道ふるさと館	大山街道ふるさと館	望月一樹
丸子の渡しと丸子橋	中原往還において多摩川を渡る手段である渡船と橋の歴史	10/14(土)	大山街道ふるさと館	大山街道ふるさと館	望月一樹
かわさき産業ミュージアムツアー	京急大師線の歴史	12/5(火)	川崎区役所地域振興課	東海道かわさき宿交流館	望月一樹
川崎沿岸地域と新田開発	江戸時代における川崎地域の江戸湾沿岸の景観	2/24(土)	品川歴史館	品川歴史館	望月一樹

## (10) レファレンス

蚕を飼育する学校、個人からの問い合わせのほかに報道機関からのシルクに関する問い合わせなどが多数あった。

分類	主な内容
蚕の飼育に関して	飼育方法（ふ化から繭作りまでの各過程）
	繭の活用方法（糸くり、繭人形、染色、真綿作り）
	蚕の入手方法
	人工飼料の入手方法
	エサ（桑葉）の確保
蚕糸業に関して	絹の道
	養蚕農家
	製糸業

## (11) 後援・協力

### ア. 後援等

後援内容	事業名	主催	期間	事業内容
後援名義使用	「第23回真綿のヴィジュアル・アート」公募	(一財)日本真綿協会	12/6(水)～ 12/11(月)	真綿を素材とした作品の公募によるアート展。(展示:田中八重洲画廊) ※公募締切 10/20(金)

後援名義使用	「桑の木のある風景」絵画公募	(一財)日本真綿協会	12/6(水)～ 12/11(月)	桑の木の風景を題材にした油彩・水彩・アクリル画の公募展。(展示:田中八重洲画廊) ※公募締切 8/31(木)
--------	----------------	------------	----------------------	---

### イ. 他機関への協力

協力内容	事業名	主催	期間	備考
招待券 200 枚の提供	2017 年横浜ファッションウィーク	横浜ファッションウィーク実行委員会	4/28(金)～ 5/7(日)	
小・中学生、高校・大学生の無料入館	開港記念日	横浜市	6/2(木)	入館者実績:139 人
復刻スカーフ 6 枚の提供	2017 第 15 回バレエコンクール IN 横浜	(公社)日本バレエ協会 関東支部	5/3(水・祝)～ 5(金・祝)	参加者:約 800 人
招待券 10 枚の提供	2017 専修大学神田鳳祭	専修大学神田鳳祭実行委員会	10/7(土)～ 8(日)	入場者:約 5,000 人、ゲームの景品として。
招待券 10 枚の提供	平成 29 年度 NU 祭 第 25 回桜麗祭	日本大学文学部 桜麗祭実行委員会	11/3(金)～ 5(日)	入場者:14,080 人、ビンゴの景品として
招待券 10 枚の提供	平成 29 年度筑波大学学園祭	筑波大学学園祭実行委員会	11/3(金)～ 5(日)	入場者:約 32,000 人、福引の景品として
チラシへの優待券掲載	かながわシルクフェア	(公社)神奈川県観光協会	3/13(火)～ 22(木)	チラシ 1 枚持参につき、大人 2 名まで無料入場

### (12) 職員の派遣

協力内容	事業名	主催	期間	備考
審査委員として坂本館長を派遣	平成 29 年度蚕糸絹文化活性化推進事業審査会	(一財)大日本蚕糸会	4/11(火)、 4/18(火)、 5/11(木)、 6/23(金)、 10/6(金)	審査及び実施者への助言。

指定管理者選定評価委員として望月学芸担当課長を派遣	東海道かわさき宿交 流館部会	川崎区役所	10/23(月)	管理者団体の評価
鑑審査委員として大野学芸専門員を派遣	第 58 回東日本伝統 工芸展	(公社)日本工 芸会東日本支 部	1/12(金) 2/28(水)	染織部門の鑑審査。
文化財の調査員として望月一樹学芸担当課長を派遣	文化財調査	川崎市教育委 員会文化財課	1/29(月)	古筆手鑑の調査及び報告書の作成
非常勤講師として望月一樹学芸担当課長を派遣	博物館課程「博物館 実習」	日本女子大学	4月～3月	月曜日1限

### (13) 広報

当館の基本情報や各企画内容について、テレビ・新聞・WEB等、多くの媒体で取り上げられた。

#### ア. テレビ・ラジオ 2件

主な取材内容	放映日	放送局	番組名
かいこ教室	8/6	TBS ラジオ	「安住紳一郎の日曜天国」(10:00～11:55)の「おでかけリサーチ」(生中継) ※番組終了後に当番組ホームページでも紹介
秋の特別展 横浜・生糸ものがたり I “かいこ”と暮らす ーかな がわ養蚕録ー	10/20	tvk	tvk スポットニュース(11:55～12:00)

#### イ. 新聞・業界紙 32件

主な取材内容	掲載日	新聞社等	掲載欄等
常設 / 基本情報	7/2	週刊新聞 新 かながわ	連載シリーズ「館長訪問」
	7/6	読売新聞	Come On !
	7/23	しんぶん赤旗	日曜版

	8/30	神奈川新聞	横浜版
	9/15	日本経済新聞	探訪サイエンス
	10/4	神奈川新聞	横浜版
春の企画展	4/28	神奈川新聞	Museum Navi
ふくらむ はずむ まじわる	5/1	朝日新聞	夕刊「Around Tokyo」
シルクの輝きを知る ～織り	5/1	東京新聞	かながわインフォメーション
の美～	5/7	読売新聞	横浜地域版
	5/21	産経新聞	かながわ美の手帖
	5/23	朝日新聞	かながわ『マリオン』
来館200万人達成記念	6/27	毎日新聞	神奈川県版
	6/27	読売新聞	神奈川県版
	6/27	日本経済新聞	神奈川県版
来館200万人達成記念	7/3	東京新聞	
	7/7	神奈川新聞	
かいこ教室	7/22	毎日新聞	かながわ遊ナビ
	7/26	日本経済新聞	
	7/31	朝日新聞	夕刊「Around Tokyo」
秋の特別展	9/22	朝日新聞	横浜版
横浜・生糸ものがたり I	9/29	読売新聞	横浜版
“かいこ”と暮らす かな	10/16	教育家庭新聞	
がわ養蚕録-	10/17	日本経済新聞	神奈川県版
	10/24	神奈川新聞	横浜版
秋の特別展連載記事	9/22	神奈川新聞	[文化]イマカナ
かながわシルクネットワーク	10/2		
① 県内の養蚕	10/9		
② 都市・川崎の養蚕	10/16		
③ 厚木の養蚕結社	10/30		
④ 繭玉団子の願い	11/6		
⑤ 横浜・井汲家			
⑥ 未来への伝承			
たのしいかいこの発表会	12/4	神奈川新聞	「横浜みなと新聞」
シルキーウィンターフェスティバル	12/6	日本経済新聞	神奈川県版

## ウ. WEB

主な取材内容	掲載日	掲載先等	
常設／基本情報	4月	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	横浜トラベルインフォスポット
	5月	(株)ダंक	町旅

	5月	(株)朝日新聞社	子どものキャリア教育のための検索サイト「おしはく情報館」
	6/15	(株)DNPアートコミュニケーションズ	美術館・アート情報の Web マガジン「artscape」
	9月	(株)学研プラス	学研キッズネット
	2/2	(株)パパカンパニー	あそびい横浜 ー横浜で子供と遊ぶ！ー
春の企画展 ふくらむ はずむ まじわる シルク の輝きを知る ～ 織りの美～	4/28	(公財)横浜市芸術文化振興財団	ヨコハマ・アートナビ
	4月	(公財)横浜市芸術文化振興財団	創造都市横浜イベントカレンダー
	4月	(公社)神奈川県観光協会	観光かながわ NOW イベントカレンダー
	4月	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	横浜観光情報 YOKOHAMA VISITORS' GUIDE
かいこ教室	7月	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	横浜観光情報 YOKOHAMA VISITORS' GUIDE
	8/7	三井不動産レジデンシャル(株)	三井不動産レジデンシャル みんなの住まい
秋の特別展 横浜・生糸ものが たり I “かいこ” と暮らす ーかなが わ養蚕録ー	8/14	(公財)横浜市芸術文化振興財団	ヨコハマ・アートナビ
	10/13	(株)イープラス	チランミュージアム
	10月	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	横浜観光情報 YOKOHAMA VISITORS' GUIDE

## エ. 書籍

主な取材内容	掲載日	掲載先等	
常設／基本情報	4/3	成美堂出版(株)	歩く地図 鎌倉・横浜散歩 2018
	5月	玉川大学出版部	児童向け絵図鑑 「玉川百科 こども博物誌」
	6/1	ハマナカ(株)	定期購読誌 「アイアムオリーブ」 6月号
	8月	(株)旅行出版社	どこいこ観光関連ガイド
	9月	(株)教材研究所	おすすめコース東京＋横浜
	12月	(株)美術年鑑社	美術年鑑 平成30(2018)年版
	12月	(株)ビジョン企画出版社	美術大鑑 2018年版
	12月	(株)教材研究所	東京散策乗物ガイド



	12月	(株)生活の友社	美術界データブック 2018
	1月	株式会社 JTB パブリッシング	るるぶ横浜
かいこ教室	7/25	(株)日経サイエンス	日経サイエンス9月号 別冊付録「親子の科学の冒険」

### オ. ミニコミ・研究誌等

主な取材内容	掲載日	掲載先等	
常設／基本情報	4月	横浜市民局広報課	横浜市「暮らしのガイド」
	4/1	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	おもてなしマニュアル 2017
	7月	(公財)横浜市芸術文化振興団	ヨコハマ・ギャラリー・マップ 2017-2018
	11月	神奈川県博物館協会	ぐるりかながわミュージアムマップ 2017-2018
来館200万人達成記念	7/6	(株)タウンニュース社	タウンニュース 中区・西区版 NO.585
かいこ教室	7月	神奈川県政策局政策部総合政策課	平成29年度 かながわサイエンスサマー
	7月	(公財)日本博物館協会	博物館研究 2017.8月号
	7月	横浜商工会議所	YOKOHAMA 商工季報 2017 夏号
秋の特別展 横浜・生糸ものがたり I “かいこ”と暮らす -かながわ養蚕録-	10月	(公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜画廊散歩 2017年10月号
	10月	(公財)日本博物館協会	博物館研究 2017.10月号
	10月	横浜商工会議所	YOKOHAMA 商工季報 2017 秋号
	10月	(一財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹産業提携支援センター	シルクレポート 2017.10月号
	10/5	(株)タウンニュース社	タウンニュース 中区・西区版 NO.598
	11月	(公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜画廊散歩 2017年11月号
ワークショップ	4/1	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	おもてなしマニュアル 2017
	10月	(公財)日本博物館協会	博物館研究 2017.10月号

### (14) その他

#### ア. 来館 200 万人を達成

6月25日(日)に家族で来館した横浜市都筑区在住の小学1年生の女の子が、200万人目の来館

者となった。記念品として、認定証と特別無料入館券（生涯利用）、オリジナルシルクスカーフ、まゆるんグッズを贈呈した。なお、来館者先着 200 名にも「まゆるんクリアファイル」を配布した。

【写真】



イ. 大野学芸専門員が蚕糸功労賞を受賞

第 73 回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の平成 29 年度「蚕糸功労者表彰式」が、11 月 26 日に帝国ホテルで開催され、大野学芸専門員が表彰された。

5 資料

(1) 組織と職員

【組織図】

一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館

専務理事 — 事務局長

|

(シルク博物館)

博物館部長(館長)(1) — 学芸担当課長(1) 学芸課長(1)

学芸員(1) 学芸専門員(1)

非常勤職員(1) アルバイト(5) ※( )内は人員

【委嘱者氏名】 名誉館長

マリ クリスティーン

【職員氏名】 博物館部長 (館長)

坂本 英介

学芸担当課長

望月 一樹

学芸課長

石鍋 由美子

学芸員

佐野 遊海

学芸専門員

大野 美也子

非常勤職員

高橋 多麻実

(2) 事業費

費目	内容	支出(円)
博物館事業費		7,288,696
内訳)		
普及事業費	常設展示費・特別展開催等	6,274,690
資料整備費	資料補修費・図書資料等収集費	166,224
広報事業費	広告掲載費	243,655
運営管理費	運営委員会開催費・損害保険料	604,127

(3) 所蔵資料

	前年度末の累計 収集・寄贈	平成 29 年度		本年度末の累計
		購入	寄贈	
資料	6,119	1	472	6,592
写真・ビデオなど	608	1	0	609
図書	6,530	14	0	6,544
計	13,257	16	472	13,745

(4) 入館者状況

(人)

	個人				団体※1				無料 ※2	入場者 計
	一般	シニア	高・大	小・中	一般	シニア	高・大	小・中		
4月 【22日】	309 (85)	144 (41)	34 (6)	58 (5)	42 (5)	36 (0)	1 (0)	14 (0)	551	1,189 (142)
5月 【26日】	502 (59)	336 (27)	220 (9)	786 (0)	80 (0)	110 (0)	162 (0)	232 (0)	1,096	3,524 (95)
6月 【22日】	336 (38)	148 (5)	17 (1)	148 (3)	62 (2)	32 (0)	65 (18)	1,032 (0)	621	2,461 (67)
7月 【26日】	418 (48)	103 (13)	38 (7)	178 (9)	159 (0)	35 (0)	23 (0)	686 (0)	459	2,099 (77)
8月 【26日】	708 (70)	112 (9)	54 (8)	382 (7)	205 (0)	33 (0)	16 (0)	264 (0)	585	2,359 (94)
9月 【26日】	314 (71)	159 (49)	36 (6)	140 (2)	81 (0)	103 (0)	110 (0)	1,037 (0)	467	2,447 (128)
10月 【22日】	311 (82)	163 (43)	60 (5)	97 (2)	69 (0)	82 (0)	1 (0)	831 (0)	563	2,177 (132)
11月 【22日】	305 (46)	149 (17)	38 (7)	55 (0)	45 (0)	55 (0)	1 (0)	585 (0)	586	1,819 (70)

12月 【22日】	182 (36)	76 (7)	52 (7)	69 (0)	16 (0)	39 (0)	2 (0)	0 (0)	1,007	1,443 (50)
1月 【23日】	209 (31)	74 (7)	18 (0)	67 (0)	67 (0)	29 (0)	14 (0)	183 (0)	383	1,044 (38)
2月 【23日】	224 (40)	80 (11)	31 (6)	176 (5)	42 (0)	32 (0)	4 (0)	367 (0)	397	1,353 (62)
3月 【27日】	287 (55)	70 (13)	44 (7)	119 (2)	177 (0)	34 (0)	2 (0)	167 (0)	747	1,647 (77)
計 【287日】	4,105 (661)	1,614 (242)	642 (69)	2,275 (35)	1,045 (7)	620 (0)	401 (18)	5,398 (0)	7,462	23,562 (1,032)

【 】 開館日数 ( ) 外国人

※1 団体割引適用者を含む ※2 ホール利用者、招待券、優待券等による無料入館者（外国人含む）

### (5) 過去の特別展・企画展一覧

年度	特別展等
1959(昭和 34)	シルクセンター竣工記念全国輸出振興展
	特別展『蚕織錦絵展』
1960(昭和 35)	特別展『近世日本衣装名品展』
1961(昭和 36)	特別展『近代染織名作展』
1962(昭和 37)	特別展『日本伝統染織工芸展』
1964(昭和 39)	特別展『オリンピック東京大会記念シルクフェア』
1965(昭和 40)	特別展『能装束展』
1966(昭和 41)	「第 8 回米国貿易見本市出品絹製品展示会」
	特別展『伝統染織作品と紅染資料展』
1967(昭和 42)	特別展『紋と繡の美展』
1968(昭和 43)	特別展 開館 10 周年記念『シルク博物館所蔵品展』
1969(昭和 44)	特別展『江戸時代能装束展』
1970(昭和 45)	特別展『花のきものと髪かざり展』
	特別展『第 1 回シルク博物館染織作品展』
1971(昭和 46)	特別展『第 2 回シルク博物館染織作品展』
1972(昭和 47)	特別展『第 3 回シルク博物館染織作品展』
1973(昭和 48)	特別展『第 4 回シルク博物館染織作品展』
1974(昭和 49)	特別展『第 5 回シルク博物館染織作品展』
1976(昭和 51)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
1977(昭和 52)	特別展『世界の民族衣装展』
1978(昭和 53)	特別展『人間国宝による「絹の伝統染織名作展」』
1979(昭和 54)	特別展『横浜絹の祭典と染織新作展』

1980(昭和 55)	特別展『思い出のきもの展』
1981(昭和 56)	特別展『草木染展と染織新作展』
1982(昭和 57)	特別展『洋装のあゆみとニューファッション展』
1983(昭和 58)	特別展『ふるさとの絹展と第 8 回染織作品展』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
1984(昭和 59)	特別展『花嫁衣装展』
	特別展『江戸期から現代までの「江戸小紋展」』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『郷土かながわの染織作品展』
1985(昭和 60)	特別展『日本人形の細工物展』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『フランス絹織物栄光とその先達「リヨン織物美術館秘蔵品展」』
1986(昭和 61)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『関東の絹展と第 9 回染織作品展』
1987(昭和 62)	特別展『レースの美展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ファッションデザイナーによる'87 ニューウェーブきもの展』
1988(昭和 63)	特別展『ふろしきの今昔展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『'88 ニューシルク展と第 10 回染織作品展』
1989(平成元)	特別展『シルク博物館所蔵名品展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『華麗なる絹の世界へ「絹の文化展」～江戸と現代～』
1990(平成 2)	特別展『「日本の紬展」～紬のふる里を訪ねて～』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクまつり'90 と第 11 回染織作品展』
1991(平成 3)	特別展『館蔵「蚕織錦絵展」～錦絵にみる時代風俗と衣装～』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～桂由美コレクション～「世界の民族花嫁衣装展」』
1992(平成 4)	特別展『館蔵「染織名品展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'92 と第 12 回染織作品展』
1993(平成 5)	特別展『館蔵「江戸小袖展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「絹と化粧まわし展」～戦後横綱の化粧まわしによる～』
1994(平成 6)	特別展『館蔵「江戸古裂展」』

	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェスタ'94 と第 13 回染織作品展』
1995(平成 7)	特別展『～繡の美～「甦る足柄刺繡展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「思い出のきもの展」－PART II－ ～昭和・平成の衣裳作品から～』
1996(平成 8)	特別展『～日本人の贈りもの～「掛袱紗展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'96 と第 14 回染織作品展』
1997(平成 9)	特別展『アヅマカブキの舞踊衣装展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～手織りの芸術美～「ラオスの伝統織物展」』
1998(平成 10)	特別展『カイコの道具展とシルクフェア'98』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 15 回染織作品展と秋のシルクフェア』
1999(平成 11)	特別展『文化の伝承－江戸から現代へ「華麗なる能装束の美」展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『染めの美織りの美 ～人間国宝作家作品を中心として～』
2000(平成 12)	特別展『沖縄の伝統染織展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 16 回全国染織作品展』
2001(平成 13)	特別展『人生をかけた荒井照太郎の手描友禅その美』
	企画展『「熊田千佳穂の昆虫記録展」と親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ブータンの民族衣装とシルクフェア』
2002(平成 14)	特別展『中村光哉友禅染色の詩展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 17 回全国染織作品展とシルクフェア』
2003(平成 15)	特別展『糸目友禅の巧み「人間国宝 山田貢展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『市田ひろみコレクション「世界の民族衣装展」』
2004(平成 16)	特別展『自然をいつくしむ手描友禅「人間国宝 田島比呂子展」』
	企画展『親と子の「歌舞伎人形とかいこの自然科学教室」』
	特別展『第 18 回全国染織作品展』
2005(平成 17)	特別展『世界のふろしき展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『今に伝えるつむぎの魅力』
2006(平成 18)	特別展『「人間国宝 細見華岳展」－綴織に心を込めて－』

	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 19 回全国染織作品展』
2007(平成 19)	特別展『インド サリーの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『旧山辺知行コレクション「インドの染織展」』
2008(平成 20)	特別展『アロハ・デザイン展』
	特別展『ラオス女性が伝える手織りの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 20 回全国染織作品展』
2009(平成 21)	特別展『佐賀錦のみやびな世界「人間国宝 古賀フミ展」』
	特別展『開館 50 周年記念「ヨコハマ開港とシルク展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『鈴木一コレクション「古渡り更紗と名物裂展」』
2010(平成 22)	特別展『ペルシャシルク絨毯の世界』
	特別展『華麗なる能装束「稔りの季」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 21 回全国染織作品展』
2011(平成 23)	特別展『「三浦景生展」ーヨコハマ染陶歷程ー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー平山郁夫シルクロード美術館コレクションー 「豊饒なる色彩ーウズベキスタンの布と器」
2012(平成 24)	特別展『「美しい日本の絹」ユミ カツラブライダルコレクション』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
2013(平成 25)	特別展『群馬県立日本絹の里との提携記念 「夢を紡いだシルク」ー「蚕の国」群馬と「シルクの街」ヨコハマー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー美しい日本の絹ー「友禅」』
2014(平成 26)	企画展『世界に羽ばたいたスカーフたち』
	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『第 23 回全国染織作品展』
2015(平成 27)	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『今に生きる 江戸小紋 ～小宮家四代の作品を中心に～』
2016(平成 28)	企画展『キモノの美ー人間国宝田島比呂子の友禅ー』
	特別展『第 24 回全国染織作品展』
2017(平成 29)	企画展『ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る～織りの美～』
	特別展『横浜・生糸ものがたり I “かいこ” と暮らすーかながわ養蚕録ー』

※「かいこ教室」は教育普及事業に分類したため、2016 年度より本表から外した。

シルク博物館平成 29 年度年報

平成 31 年 1 月 8 日発行

編集・発行 シルク博物館

〒231-0023

神奈川県横浜市中区山下町 1 番地

TEL 045-641-0841



